平成27年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業 事業計画概要 【職域プロジェクトA(観光分野)】「富山県におけるインバウンド対応のできる中核的ホテルマン育成」 (学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校)

課題・ニーズ・背景・目的

○課題・ニーズ・背景

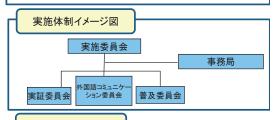
- ①平成25年度富山県の観光客入れ込み数は平成23年度の2倍を超えている
- ②観光客は増加しているが90%を超える旅行者が宿泊していない
- ③富山県として魅力ある観光ルートの開発、宿泊業の強化が必要
- ④富山県全体のグローバル化が必要

〇26年度の成果と課題

- ・自発的インターンシップモデルコースの調査と開発、実証を行った ホテル型のメリットの強化を図るため業務参画型のインターンシップ体制の整 備が必要であることがわかった。27年度は継続し業務補助型から業務参画型 のインターンシップ数材を作成する
- ・外国語コミュニケーション力についての調査を行った。
- ホテル観光分野に特化した専門英語を学ぶための教材が必要であること、ま た積上げ型の英語学習方法が効果的なことがわかった
- 今年度はデ・ラ・サール大学と連携し教材の作成、検証授業を行う。
- ・海外留学・研修プログラムのヒアリング調査
- 海外における4ヶ月間程度の研修プログラムを組むことによりホテルマンとして
- の必要なコミュニケーション能力が身に付くことがわかった。 今年度はフィリピンのデ・ラ・サール大学と連携しカリキュラム、教材の開発を 行う。

平成27年度の具体的な取組内容

- ○中核的ホテルマン育成指針、カリキュラム、シラバス の導入および海外連携プログラムの最終設計 デ・ラ・サール大学と教育設計
- ○自発的インターンシップモデルコース 当校ホテル・ブライダル学科の学生を対象に 夏期2週間~1ヶ月、冬期1ヶ月の実証講座を開催
- ○単位互換を実施する上で求められる外国語 コミュニケーションカ調査 教材開発を行い当校ホテルブライダル学科13名を 対象に検証授業を行う



参加·協力機関

参加・協力機関

①教育機関(16機関)

富山情報ビジネス専門学校 学校法人KBC学園 専門学校岡山情報ビジネス学院 国際外語・観光・エアライン専門 学校法人麻生塾 横浜商科大学 早和田大学 郡山情報ビジネス公務員専門学校 デ・ラ・サール大学 盛岡情報ビジネス専門学校 高知情報ビジネス専門学校

立教大学 玉川大学 院 跡見学園女子大学 門学校 流通経済大学 横浜商科大学

②産業界(11機関) 有限会社ザ・ライスマウンド ANAクラウンブラザホテル 高に第一ホテル ホテルニューオータニ高間 特定非意味能動は、関西アジア大平洋共生機材 株式会社グローバルビジネス戦総会研究所 村1研究所 フォーエバー株式会社 グランテラス高山 宇奈月杉乃井ホテル

平成27年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業 事業計画概要 【職域プロジェクトA(観光分野)】 「富山県におけるインバウンド対応のできる中核的ホテルマン育成」 (学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校)

成果目標(アウトカム)

- 訪日外国人に対するオペレーションを英語を言語とし て学ぶことによりスムーズに対応するコミュニケーションカ を身につける。
- (平成28年度目標)
- ホテルの従業員として業務に参画し、実体験を通して ホテル業界を知り、学ぶことができる。
- (平成27年度に本校学生6名を対象とする実施)
- ホテルマンとして必要な業界の専門英語(ESP)を理 解する。
- (平成27年度に本校学生13名を対象として実施)

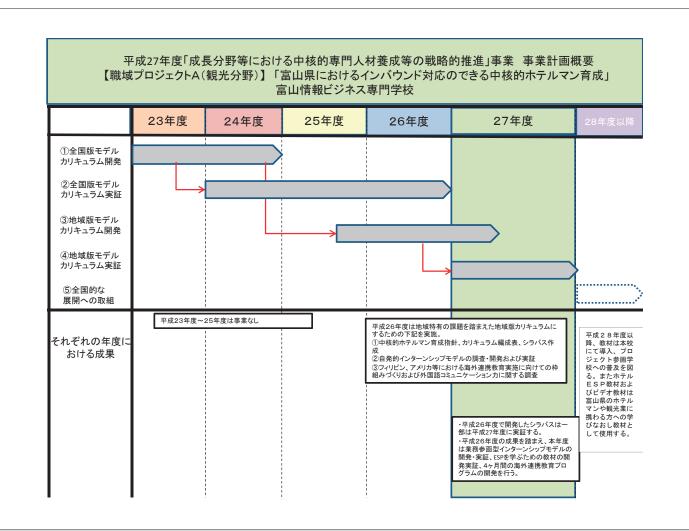
活動指標(アウトプット)

- 自発的インターンシッププログラム教材
- ・自発的インターンシッププログラム教員用の指導書
- ・海外大学との単位認定基準を定める
- ·ホテルESP教材
- ・事業成果をまとめた報告書
- ·情報公開用HP
- ・自発的インターンシッププログラム(業務補助型)実証講座 学生13名程度
- ・自発的インターンシッププログラム(業務参画型)実証講座 学生6名程度
- ・ホテルESP講座検証 学生13名程度

平成27年度の成果の活用

- -ンシッププログラム教材、教員用の指導書は平成28年度から本校において導入。また本プロジェクト参画大学、専門学校へ普及を図る
- ・海外大学との単位認定基準を定めるは平成28年度から本校において導入。また本プロジェクト参画専門学校へも普及を図る
- ・ホテルESP教材は平成28年度から本校において導入。また富山県のホテルマンや観光業に携わる方へ学びなおし教材として使用
- ・成果物を普及させるために、成果報告会を開催する ・成果物を普及させるための組織結成を検討する

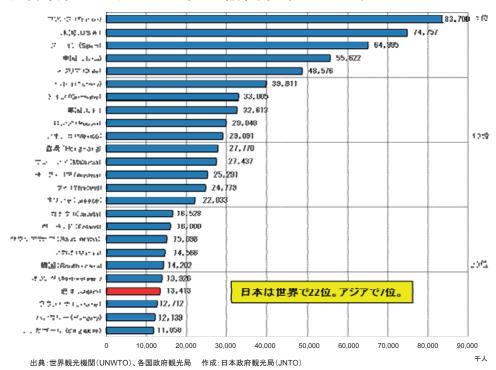




当プロジェクトに至る背景

当プロジェクトに至る背景 ①

世界各国・地域への外国人訪問者数(2014年)

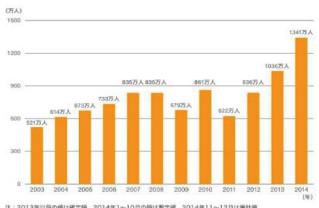


当プロジェクトに至る背景 ②

訪日外国人旅行者数

2013年 … 1036万人 2014年 … 1341万3600人 2年連続で最高を更新 2015年(1~6月)・・・ 913万9900人 前年同期比46.0%増加 「2000万人」達成目標 2020年 …

訪日外国人旅行者数の推移(2003~2014年)

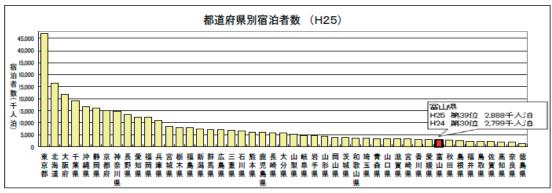




注:2013年以前の値は確定値、2014年1~10月の値は暫定値、2014年11~12月は推計値 出典:日本政府観光局(JNTO)

当プロジェクトに至る背景 ③

富山県の延べ宿泊者数



平成25年度の富山県全体の観光客入込数は、平成24年の27,587千人に比べ6.6 %増加し、29,416千人となった。

また、平成25年1月から12月の宿泊旅行統計調査によると、平成25年全国の延べ宿泊者数は、3億8,232万人泊(対前年比6.2%増)であった。うち富山県の宿泊者数は2.888千人泊で全国第39位であった

【富山県観光課調べ】

90%を超える旅行者が富山県で宿泊していない

当プロジェクトに至る背景 ④

- 訪日外国人に外国語でコミュニケーションをとり、 積極的に豊かな自然を有する富山の魅力を伝 えることができる人材育成が必要である
- 魅力ある観光ルートの開発や宿泊業の強化、 さらには町全体のグローバ化が必要である
- 訪日外国人の訪問を促進するとともに、満足度を 高め、リピーターの増加を図る必要がある

海外連携教育プログラム

フィリピン【デ・ラ・サール大学ベニール・カレッジ】



英語が苦手な学生でも学びやすい! ホテルを運営している大学なので実習を通して英語が 身に付きます

ホテル・ベニール

















海外連携教育プログラム

項目	内容
留学時期	1年次9月~12月の4ヶ月間
場所	デ・ラ・サール大学セント・ベニール校
刘象者	富山情報ビジネス専門学校小テル・ブライダル学科の学生および友好関係にある大学・専門 学校の学生
覆修科目	講義と実習で378時間+インターンシップ180時間= <u>合計558</u> 時間 表1参照
1クラスの人数	15名~25名 日本人単独クフス

履修科目

コース名	週	時間
特定目的の英語(EPS)1 : English for Specific Purpose 1	14	42
特定目的の英語(EPS)2 : English for Specific Purpose 2	14	42
特定目的の英語(EPS)3 : English for Specific Purpose 3	14	42
フロントオフィス講義 : Front Office Lecture	14	28
フロントオフィス実習 : Front Office Laboratory	14	42
フロントオフィスのためのIT (Opera) : IT for Front Office (Opera)	14	42
料飲部門技術講義 : F&B Techniques Lecture	14	28
料飲部門技術実習 : F&B Techniques Laboratory	14	42
バーマネージメント講義 : Bar Management Lecture	14	28
バーマネージメント実習 : Bar Management Laboratory	14	42
Hotel Benilde でのインターンシップ : Internship at Hotel Benilde		180
合計時間		558

インターンシップ

ホテルフロント







レストランウエイター







ベッドメイキング







VATEL (ヴァテール)



- ・ VATELはホテル経営学校の最大のグループ (24カ国に計31校) 7,000名の在校生、29,000名の卒業生
- 世界的なネットワークを持ち権威があり魅力的なホテルチェーンやレストランでインターンシップを行うことができる
- ・ ラサール大学では教育連携協定により2008年よりスタート
- ・ マルコポーロプログラムにより国際交流の機会を得ている
 - ※マルコポーロプログラム:国境を越え2つの学位を取得できるプログラムVATELから国際ホテル・マネージメントの学位を取得できます。









授業風景

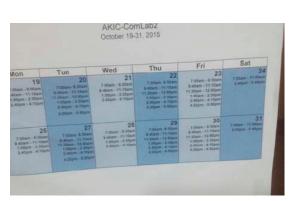






パソコン教室があり、授業で使用している以外は時間を決めて学生に開放されている

授業で指示される補助教材にアクセスし 学習できる環境になっている



フロントオフィス講義

〈教育目標〉

- 1. プロのフロントオフィスに必要な顧客対応と対応能力で業務を行う
- 2. 特定のマーケットにおける顧客からの予約の取り付け
- 3. 多様な顧客の予約にみられる登録要件の履行

〈授業方法〉

- 1. クラスディスカッションを取り入れた講義方式
- 2. ケーススタディや、問題解決型訓練
- 3. グループワーク
- 4. ロールプレイとシミュレーション
- 5. デモンストレーション

〈評価方法〉

- 1. 筆記試験
- 2. ケース分析
- 3. 個人またはグループ課題

口頭試験/出欠	15%
プロジェクト	15%
小テスト	20%
試験	50%
合計	100%

フロントオフィス実習

〈教育目標〉

- 1. プロのフロントオフィスに必要なゲスト対応と対応スキルを明示する
- 2. 多様なマーケットのゲストからの予約を取り付ける
- 3. 多様なゲストの予約時に登録に必要な情報を集める
- 4. ゲストの滞在とチェックアウトの業務について正しい手続きについて示す
- 5. フロントオフィス業務全ての要素において、効果的なセールスを行う

〈授業方法〉

- 1. クラスディスカッションにつなげるための練習やロールプレイ
- 2. ケーススタディや、問題解決型訓練
- 3. 学習体験を高め、幅を広げるためのマルチメディア、インターネット参照
- 4. 経験を共有し、評価し合うような共同学習

〈成績評価〉

訓練	40%
課題	20%
小テスト	20%
試験	20%
合計	100%

フロントオフィスのためのIT

〈教育目標〉

- 1. ゲストサイクルの4段階に併せてオペラPMSのフロントオフィスモジュールの機能を利用、操作、運用する
- 2. ゲストのアカウントの作成、予約やイベントの入力、オペラのセールス&ケータリングモジュールの機能を利用、操作、運用する
- 3. オペラOMSとセールス&ケータリングシステムの関係を理解する

〈授業方法〉

- 1. 講義デモ
- 2. シミュレーション
- 3. 実践課題
- 4. 実験、実践
- 5. ロールプレイ

態度	10%
小テスト	20%
実務作業	30%
習ったことの実践	20%
テスト	20%
合計	100%

料飲部門技術講義

〈教育目標〉

学生がウエイターに対して異なる認識を持ち、やりがいがあり、自分にとって 利益をもたらす職業という考え方を得ることができる

〈授業方法〉

- 1. 講義ディスカッション
- 2. 設備の確認
- 3. 映像
- 4. グループ活動やケーススタディ
- 5. デモンストレーション

〈成績方評価〉

口頭試験	10%
ケーススタディ	15%
小テスト	20%
試験(中間)	25%
試験(期末)	30%
合計	100%

料理部門技術実習

〈教育目標〉

- 1. 実際の活動を通して講義コースで学んだ基礎と理論を生かす
- 2. 食品・飲料サービスにおいて業界で定められた基準や手順で実演する

〈授業方法〉

- 1. 実演を受けての実習訓練/反復練習、映像での学習
- 2. 個人、グループでの成果発表
- 3. 食品・飲料サービス集中訓練

訓練	20%
小テスト	10%
筆記試験(中間)	20%
筆記試験(期末)	20%
集中学習	30%
合計	100%

バーマネジメント講義

〈教育目標〉

- ホテル、レストラン、ケータリングビジネスの料飲部門のオペレーション 範囲について理解し、実演する
- 2. バーや飲料サービスオペレーションにおける管理体制を形成しバーの管理システムや価格設定を確立する

〈授業方法〉

- 1. 講義ディスカッション
- 2. デモンストレーション
- 3. 設備の確認
- 4. グループ活動やケーススタディ

〈成績評価〉

口頭試験	10%
ケーススタディ	15%
小テスト	20%
筆記試験(中間)	25%
筆記試験(期末)	30%
合計	100%

バーマネジメント実習

〈教育目標〉

- 1. 様々な種類のバーの器具、設備、ガラス製品やバーの供給品について 定義し、海外や国内市場で提供されているワイン、スピリット、リキュール について、製造や品質について詳細な情報を含め、実務上の知識を高 める
- 2. 世界に通用する基準に基づいたカクテルレシピを学び、自分独自のカクテルレシピを考えることができる。

〈授業方法〉

- 1. 講義ディスカッション
- 2. デモンストレーション
- 3. 設備の確認
- 4. グループ活動やケーススタディ

ケーススタディ	5%
実習活動·成果	15%
実技	10%
小テスト	10%
筆記•実技(中間)	15%
筆記・実技(期末)	15%
集中クラス	30%
合計	100%

校外授業 サン・オウガスチン教会



インストラムロスにある世界遺産で フィリピン最古の石造り教会 フィリピンの歴史、宗教などを 学ぶためにも校外授業の候補とする

結婚式も多く行われている







学内クリニック







常駐の医者と看護師が対応する。

健康診断と薬は無料で学生に提供される。

UNIVERSITY COLLEGE RESIDENCE

レディースドミトリー



















2名部屋1名7,900ペソ(1ヶ月)

Providence Tower Manila



デラサール大学公認コンドミニアム

管理人、オーナーもコンドミニアム内に住み込み 費用は部屋によるが2名部屋1名8,000ペソ〜 4名部屋1名5,125ペソ〜











現地サポーター ①

現地サポーターが手厚くフォロー

1. 日本語による現地ホットライン

【AKI財団法人】 大類 晶嗣 さん Mary Jane さん

- ・健康相談(怪我や病気で困った場合、日本語で相談)
- ・ホームシックなど、メンタル的な問題について、日本語で相談受付
- ・安全、安心の留学生活のアドバイス (国際郵便物取り扱いの相談・ATM銀行引き落としなど)
- ・万が一の事故などに遭遇した場合 (在比国の日本の公的機関(日本大使館、日本人診療所など)へ連絡・相談援) (日本の学校、自宅に緊急連絡)
- 2. 留学生活をエンジョイするためのミス・コミュニケーションとトラブル防止
- ・生活習慣の違いなど、現地で発生したトラブルの相談やアドバイス
- ・公共施設、交通機関の利用についてのアドバイス
- ・留学生活をエンジョイするための助言

現地サポーター ②

- 3. 留学先の大学などと連携
- ・カリキュラム進捗状況など、現地大学と定期的にミーティング (オリエンテーション時の通訳) (留学生と現地学校側のコミュニケーション・サポート)
- ・学習内容など、必要に応じて日本側へ連絡 (授業の進捗状況など、日本側へ連絡)
- ・宿舎先へ定期的に訪問し、留学生活をフォローアップ
- ・授業内容、生活面などで困った場合、日本語で相談受付し現地大学などへ伝 える

【AKI財団】

比国の大学·行政·企業と連携して日比両国間の教育事業をはじめて 約20年間。

日本人向け英語留学や現地大学などで日本語教育をしている

平成27年度文科省委託事業 (富山県におけるインバウンド対応のできる中核的ホテルマン育成)

【期待できる効果】

- ・訪日外国人に積極的に外国語で コミュニケーションがとれる
- ・訪日外国人に地方の魅力を伝えることができる
- •ホテルの総合的な理解ができている
- 帰国後のインターンシップでの自発的な行動ができる
- ・学習意欲向上につながる
- -TOEICの点数がアップする



富山県におけるインバウンド対応のできる中核的ホテルマン(訪日外国人に対し外国語でコミュニケーションをとり、積極的に豊かな自然を有する富

(訪日外国人に対し外国語でコミュニケーションをとり、積極的に豊かな自然を有する富山の魅力を伝えることができる人材)

文部科学省「成長分野における中核的専門人材 養成等の戦略的推進」事業 「富山県におけるインバウンド対応のできる中核的 ホテルマン育成」事業

平成26~27年度:

外国語コミュニケーション分野プロジェクト 概要報告

1、平成26年度事業概要:

・単位互換・外国語コミュニケーション分科会にて、 約半年間に渡り「中核的ホテルマン育成」および 「海外との単位互換制度」=海外留学に必要な語 学・コミュニケーション能力について協議。 26年度事業の成果物として『中核的ホテルマン 育成のための外国語コミュニケーション教育』報 告書を作成。

H26年度報告書のポイント

- ・ 留学に必要とされる一般的英語力(+ アカデミック英語)の底上げ
- 専門英語(ESP=English for Specific Purposes)の重要性
- 異文化コミュニケーションカの重要性
- ・ 既存教材の研究→これまでに無いESP 教材の開発を目指す

2、平成27年度事業概要(1):

• 前年度の研究結果を踏まえ、フィリピンの大学 とのホテル/ホスピタリティ業ESP教材共同開発を 行う。

フィリピン教育機関との協議(単位互換提携先候補)

- ・マカティ大学
- ・ラサール大学

2、平成27年度事業概要(2):

- フィリピンの協力教育機関としてマニラのラサール大学(De La Salle College of Saint Benilde)が決定。
- 先方は学内英語教育分野のトップを筆頭に5 名のプロジェクトチームを編成し、教材開発に 着手。

2、平成27年度事業概要(3)

- ・教材開発が進行する中、昨年12月に教材ドラフトの一部を使い富山情報ビジネス専門学校にて実証講座を実施。
- 日程:12/3,7,10日 計3日間、90分×6コマ
- 対象学生:ホテルブライダル学科現1年生(11名)
- 使用教材: ラサール大学との共同開発教材のドラフトから、Pre-Seminar 部分(日本側が作成)、メイン教材部分のFront OfficeとFood and Beverage部分(フィリピン側が作成)、異文化コミュニケーション部分(日本側が作成)、その他ホテル・飲食業に特化したeラーニング教材を使用







2、平成27年度事業概要(4)

• ラサール大学および諸関係教育機関等の協力のもと、

「インバウンド観光客対応のできる人材育成のための外国語コミュニケーション教材」 が間もなく完成(2月末予定)

3、共同開発教材について

ESP教材の概要(構成)

- ・ホテル英語入門
- ・ アカデミック英語(留学準備)
- ・フード & ベバレッジ
- フロント業務
- バー運営
- ホテル業情報システム
- インバウンド対応のための異文化コミュニケーション



インパウンド観光客対応のできる人材育成のための 外国語コミュニケーション教材 専門英語学習表材

ホテル・ホスピタリティ業専門英語 原領コース

English for Specific Purposes Course Book

Preparatory English for Hotel and Hospitality Studies



高血情報ビジネス専門学校 ラサール大学(フィリピン) 学成 27 年度文配科学育事業 Toyama College of Business and Information Technology De La Salie-College of Saint Benilde, the Philippiness Under the scheme conducted by Ministry of Education, Japan, 2015

NOULE OF PRE-SERVING

Pre-Seminar

Introduction to Hotel and Hospitality English

~ホテル・ホスピタリティ英語入門~

ここでは、本語のホスピタリティ業専門英語コースの帯槽(グレ・セミナー)として、ホテル 英語の人門レベルを学習します。英語知ら者でも延放なく取り組めるよう。誰にでも金近なホ ケル英語を紹介しており、初心者一初報者向きです。残って必ずしる必律ではなく、このモジ ニールが不要な学習者は、そのまま Main Modules の分野別専門英語教材を使用して下さい。 このモジュールを通して前 100 部学びますが、ここでは単語を覚えることが目的ではなく、基 門用語を学習していく上でのポイントや注意事項などを理解し、今後の専門分野の英語学習に 投立てることを目標とします。自分(途)で考える、製べるという姿勢で取り組みましょう。 教材はグループワークなどを通してクラスメートと共に学ぶ形式をとっていますが、自主学習 ようとして話用することもできます。自労の場合は Grouplyair Work の部分は参考としつつ。 団等の確認など祝当教員の指導を受けながら進めて下さい。

- 1. 末ずは「専門用語」について知ろう~そもそも"専門用語"とほどのようなものか~
- Ⅱ、ホテル業で使われる用語 10 語~スタッフ/ゲストとして必ず使う基本単語~
- Ⅲ. ホテル室内の名詞~身近な物を英語で~
- 77. ホテル従業員についての用語-ホテルスタッフの名称と役割-
- V. 超内表示・案内/標準~美計の標準と美語での総内案内~
- VI. 名詞/動詞の関係を考えてみよう~単語だけでなく文章で指布できるように~ マート/ 終われる文明/ 新聞の報本会わせ~**エリカリカ・**ファイカンを持ちます。
- 頃、よく使われる名詞/動詞の組み合わせ~ホスピタリティ集でよく使う動詞と名詞をお
- さえよう~ 後習問題



NUMBER OF THE SERVING

Pre-Seminar: Introduction to Hotel and Hospitality English

【Ⅲ. ホテル室内の名詞】-#24巻5英語で-

Vocabulary Building -things in the guest room

1. それぞれの図を見て、何を意味しているか考えてみましょう。また、英語で何と言うか分 かりますか。



2、下の新費について、それぞれ「1」の図のどれに当て仕生るでしょうか。

hath towel, armchair, safe, rasor, floor lamp, slippers, pillow, mini har, refrigerator, outlet / socket, bathrobe, toilet paper, toothbrush, toiletries, television/TV, hanger, hairdryer, wastebasket, kettle, remote control,

- それぞれの話彙について、読み方(発音)をしっかり確認し、展音しましょう。
- 章末(x)の単語一覧を活用して、意味の確認をしましょう。
- きちんと変えられたか、粒だけを見て協会の確認をしましょう。

> Useful expressions: How do you pronounce/spell it?

MAIN MODULES: MODULE 1 MODULE 1

Academic English Vocabulary

HOSPITALITY PREPARATORY ENGLISH COURSE



このモジュールでは音学専復のためのアカデミック実施を学びます。本モジュールを通して100 所のア カデミック・ヴォキャブラリーを学びますが、これらはあなたが海外の実等教育機関でホスピタリティ 分野の専門的な学習をする新に求められる加蔵です。習得新彙に各ユニット 20 所ずつ優のされています。 季節に予留的(1681-1046) に取り組み役を予留末、用法を確認しておき、投業でスムーズに学習内容 を理解しタスクに取り組めるようにしましょう。

このモジュールを通してあなたが身に付けられる語学力(Medule 1 の Can-Do 目標):

I CAN...

- Review and recall important terms used in the classroom setting
 Actioulate specific terms correctly through practices and speech drills
 Understand the meanings of these terms as used in the learning environment
 Derive other words that may be formed from specific terms in the vocabulary list
 Use terms correctly in spokem and written language

NAIN NODILES: NODILE 2

MODULE 2

Food and Beverage **Technology**

HOSPITALITY ENGLISH PREPARATORY COURSE



このモジュールでは、飲食サービス業で使われる基本的かつ重要な専門用語を学習します。 様々な練習問題を通して、料理や複客など飲食業の運営に関わる用語を学んでいきましょう。 なお、ここで学ぶ用語の中には、料理法においてよく使われる外来語も含まれています。

このモジュールを通してあなたが身に付けられる語学力(Wodule 2 の Can-Do 目標):

- ✓ Be aware of the basic functions and principles of food and beverage operation.
- ✓ Understand and use selected terms used in food and beverage services and culinary art.
- ✓ Understand and use basic terms pertaining to service skills and standards in the hospitality.

MAIN MODILES: MODILE 2 MODULE 3

At the Front office

HOSPITALITY ENGLISH PREPARATORY COURSE



このモジュールでは一般的な指彙力を補強するとともに、ホテルのプロント業務で使われる専 門用語を断たに学びます。プロントは、ホテルの中でもゲストとスタッフとがもり取りを交わ す物別な部署です。"プロント"という言葉はもともと、お客様と従業員との様点はお京いに直 接合ってやり取りするというどジネスの思わばプロントラインを担うということに非常すると 言われています。プロント担当者はお客様を迎え、荷物やフェッタインのお手信いをし、ルー ムキーや郵便物などの受け渡しなど様々な形でお客様と関わります。プロントの役目として、 負好な複客関係の構築を担っているということが言えるでしょう。

このモジュールを達してあなたが身に付けられる哲学力(Module 3 の Can-Do 日復):

- Have basic communication skills using correct telephone terms and phrases.
 Be familiar with the process of checking in and out with guaranteed and non-guaranteed.
- Understand and use terms of taking reservations, checking in/out with guaranteed or non-
- guaranteed reservations.

 ✓ Use terms applied to problem-solving techniques needed to resolve guest complaints and inquiries.

92

NAME AND A PERSON OF A

MODULE 4

Bar Management Vocabulary



Source:http://update.dit.ie/2008/04-12-08/04news-briefs-Cocktail/Challenge.php

このモジュールでは、パーの運営、接客、管理、モレてワインに関する用語の習得を目指します。 さらに、パーテンダー、もしくはパーを運営するプロフェッショナルとしての役割についても学んでいきます。

このモジュールを通してあなたが身に付けられる語学力(Wodule 4 の Cam-Do 目標): I CM・・・・

- Understand and use terms relevant to the history and development, basic parts and design of a had
- Have basic communication skills needed in understanding responsibilities of a bartender/bar professional.
- Understand and use terms used in the bar, basic service procedures and policies and customer and guest service skills.
- Be aware of the operational processes involving bar management and the managerial function in the bar service.
- Be familiar with the classification of wine, wine making process and development, wines of the world and some wine labels.

136

MAIN MODULES: MODULE S

MODULE 5

Hotel Information System

HOSPITALITY PREPARATORY ENGLISH COURSE



このモジュールでは、コンピュータや情報技術に関わる用語を学習しながら、ホスピタリティ 策における情報システムの重要性、またこの分野の学習における基本的概念を学びます。ここ での学習を通して、基本的な情報システムff 用語のつづりや発音、用法を学んでいきましょう。

このモジュールを通してあなたが身に付けられる哲学力(Module 5 の Can-Do 目標):

I CAN...

- Identify the functions of various computer-based systems in hospitality services.
- Understand the role of information systems in the guest cycle in the hotel business.
- Describe the processes and functions involving computer use with reservation and room management.
- ✓ Discuss the functions of cashiering and end of day procedures.
- Explain the role of information systems in sales catering operation

16

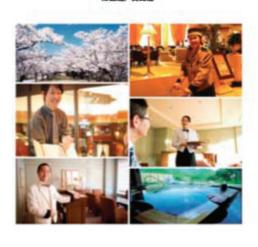
付録

中報的ホテルマン有点のための表面語=ミュニケーション教材

Intercultural Communication for Japanese Hospitality Professionals
インパウンド観光客対応のための

「異文化コミュニケーション」

マニュアル 知識組/実践編



平成 27 年度 文部科学省

成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業 富山県における中核的ホテルマン育成と単位互換制度の構築

> 学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校 外国語コミュニケーション委員会

教材開発協力者:

De La Salle-College of Saint Benilde, the Philippines

Rodrigo C. Rivera, Assistant Professor, Chairperson of the English Area

Rowena Marie R. Chua, Lectuarer

Maria Loretto Capuno, Lectuarer

Javen Babac, Lectuarer

John Paulo Herrera, Lectuarer

協力(画像提供):

宮山情報ビジネス専門学校 ラサール大学 (フィリピン) (公社) 富山県観光連盟 ほか

実施委員会

H27年度 インターンシップモデル事業 事前指導・事後指導の成果

自発的インターンシップ事業

目的: 充実したインターンシップを実施するためには、 学生に自発的な取り組み姿勢を身につけさせる 等、事前・事後教育が重要であり、そのための教材 および評価基準を作成する。

概要: ①インターンシップ事前教育(90分×5コマ)

- ②自発的インターンシッププログラム(1ヶ月)
- ③インターンシップ事後教育(90分×3コマ)

成果物:学生用教材、教員用指導書、教員用副読本

事業の流れ

対象:富山情報ビジネス専門学校 ホテル・ブライダルコース1年

事前指導<1日目 12月4日(金) 2、3、4限 90分×3コマ>

- •教室の雰囲気作り
- ・夏のインターンシップの振返り(GW)
- ・インターンシップの意味(GW)→全体共有
- ・自発的学びを知る
- ・働く意味を考える
- ・社会人基礎力を知る
- •自己効力感
- ・富山の観光について知る→ディスカッション
- •課題提示





事前指導<2日目 12月11日(金) 3、4限 90分×2コマ>

前回の振り返り

ホテルビジネスの基本構造(GW→発表) インターンシップの目標設定について インターンシップにあたっての注意事項 課題発表(ホテル概要・まちあるきプラン) まとめ

<ポイント>

- インターンシップの意味を理解する
- •自発的学びの重要性と方法を理解する
- インターンシップの目標を立てる
- ・ホテルビジネスの構造を理解する
- ・ホテル及び近隣の観光資源や特性について理解する



実習<12月14日~1月14日>

- ・ANAクラウンプラザホテル富山 2名
- ・富山第一ホテル 2名
- ・ホテルニューオータニ高岡 1名

事前依頼:・可能であれば1部門2週間×2部門

実習内容:

ANA:レストラン 富山:レストラン ニューオータニ:レストラン/宴会



事後指導<1月15日 1、2、3限>

- ・インターンシップの意味の再確認
- インターンシップの感想
- ・事後アンケートの記入
- プレゼンテーション準備
- ・プレゼンテーション/質疑応答/ディスカッション
- 講評・まとめ



考察

- 事前・事後指導の重要性
- 教材を先に提示しない教育方法の効果 ディスカッション→テキストで内容の確認
- •自発的学び方については丁寧に教育
- ■自発性を発揮できるのは2週間目から
- 事例の共有
- •個別の指導体制
- ■自発性の評価軸
- •ホテルとの連携体制

観光コンソーシアム

平成27年度「成長分野等における中核的専門人材 養成等の戦略的推進」事業

【目的】

観光分野(7職域プロジェクト)を広く紹介するとともに各プロジェクトの内容や成果を共有

職域プロジェクト

代表校	事業名
石川県教育委員会	グローバル社会の観光人材育成プロジェクト ~地域の魅力をグローバルに発信できる人材の育成~
静岡市女性会館	観光分野における女性の人材育成プロジェクト
学校法人穴吹学園 専門学校穴吹ビジネスカレッジ	訪日外国人等受け入れに対応する日本型コンシェルジュ育成事業
学校法人新潟総合学院 郡山情報ビジネス公務員専門学校	福島版MICEに対応できる中核的専門人材育成事 業
学校法人溝部学園 別府溝部学園短期大学	おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト
学校法人 横浜商科大学	観光フロンティアとしてのインバウンド観光・マイス ビジネス人材育成
学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校	富山県におけるインバウンド対応のできる中核的ホテルマン育成

観光ポータルサイト

http://kanko.27monka-itaku.net/

【掲載内容】

•事業内容 : 事業名称、幹事校、構成機関と実施体制

- 委員会の開催案内 : 各委員会の開催案内

・活動内容の報告: 議事内容・資料等を掲載

・成果報告 : 事業の成果物を掲載

平成 27 年度 文部科学省 成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業

観 光 コンソーシアム 事 業 成 果 報 告 書

平成 28 年 2 月

連絡先 〒939-0341 富山県射水市三ケ 576学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校電話 0766-55-1420

* 本書の内容を無断で転記、記載することは禁じます。